様式２

令和8年　4月　15日

就労継続支援Ａ型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	チェリッシュ
住　所	奈良市神殿町６５６－４
電話番号	0742-63-5680

事業所番号	2910102082
管理者名	柏木　要
対象年度	令和7年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

＜活動内容＞

場所：奈良県社会福祉総合センター
日程：令和８年１月１６日
実施概要
一般就労を目指す利用者が企業の講演とグループワークに参加。実際の企業が設けている「働きやすい仕組みやルール」を直接学ぶことで、就労に向けた職業準備性の向上や、職場での適切なコミュニケーション（相談等）に関する知識の深める機会とした。
利用者数：５名

＜目的＞

・企業側の視点を知ることで、働く上でのルール理解や自己発信（相談のタイミング等）の重要性を認識し、就労に向けた意識向上を図る。

・企業が多様な働き方やツールを活用して配慮を行っている実態を知り、一般就労への不安を軽減する。

＜成果＞

得られた成果
企業が実践する具体的な配慮（相談ルールの明確化など）を知ることで、一般就労への具体的なイメージと安心感を得ることができた。また、配慮だけでなく、自ら「相談する・発信する」ことの重要性に気づき、就労に向けた主体的な意欲向上に繋がった。

課題
今回学んだ「特定の個人を特別扱いせず、全体を仕組み化する」という視点や「相談しやすいルール作り」を、日々の訓練や実習先でいかに実践・定着させるかが課題。

＜活動の様子＞



連携先企業による講演



就業・生活支援センターによるグループワーク

連携先の企業や事業所等の意見または評価

意見または評価
就労支援機関との連携により、利用者が直接企業の生の声（現場のルールや配慮の実態）に触れる機会を創出できたことは有意義でした。参加した利用者がメモを取りながら熱心に企業側の視点を学び、一般就労に向けて主体的に取り組もうとする姿勢を高く評価しています。
今後の連携強化に向けた課題
利用者間で、企業の求めるコミュニケーションスキルやルールに対する理解度に差が見られたため、個別の状況に応じた事前の学習や事後のフォロー体制の構築が課題です。今後は、より多くの利用者に機会を提供できるよう受講人数の枠を拡大することや、「出張講座」の形式も視野に入れ、関係機関との連携を一層強化していきたいと考えます。

連携先企業（担当者）	なら中和障害者就業・生活支援センターブリッジ（青木）

利用者からの意見・評価

参加した利用者からの意見・評価
・会社で働くのは、わからないことがあった時にどう聞いていいか不安でした。でも、「30分考えてわからなかったら相談する」というはっきりしたルールがあると聞いて、それなら自分にもできそうだと思いました。
・体調が悪くなった時に、自分からうまく伝えられるかいつも心配になります。パソコンやスマホで毎日体調を伝える仕組みがある会社なら、一人で抱え込まずに長く働けるかもしれないと感じました。
・指示を間違えてしまったら怒られると思って怖かったです。でも、うまく伝わらなかった時は「伝え方を工夫してくれる」という話を聞いて、少しホッとしました。自分でもまずはメモを取る練習を頑張りたいです。
・いきなり一般の会社に入るのは自信がないです。でも、実習の期間が長くあって、少しずつ仕事に慣れていけるやり方があると知って、まずは企業実習というものにチャレンジしてみたいと思うようになりました。